

人として

筑後市社会福祉協議会 / 広報

9月号

478号

筑後市社会福祉協議会

(〒833-0032 筑後市野間680-1)

TEL 52-3969

FAX 53-6677

Mail info@chikugo-shakyo.or.jp

URL http://www.chikugo-shakyo.or.jp

私たちの手で 私たちのまちを 福祉のまちに…それが社会福祉協議会の目標です



終わりが見えない家族の介護 でも、仲間がいると心強い



開講中!

筑後市介護家族の会コスモス
介護をしている家族のための介護講座

「うんうん、分かる」と共感

家族会のような雰囲気講座

「皆様のご家庭では、どのように介護をされていますか?」

講師からの質問に、日々の家庭での介護のことを話す参加者。周りの人たちは「うんうん、分かる」とうなずきながら話を聴いていく。

そんな「介護をしている家族のための介護講座」が7月に開講しました。実際に家族を介護している人を対象としているため、講座自体が家族会のような雰囲気となっています。

介護家族の会コスモスでは

随時、会員を募集中!

初回は介護の基礎編。身体介護のコツ、衣類の着脱、食事の工夫などを学びました。2回目は認知症介護をテーマに、このような講座の主催団体が介

「介護で困っていること、逆にうまくいっていることを、仲間と話す笑顔になります。家族同士のつながりはとても大事です」と講師の森永牧子さん(九州大谷短期大学)。

護家族の会コスモスです。

月に1回のペースで集まり、交流をメインに活動しています。毎年7〜10月は介護講座を実施。随時、会員を募集しています。

「家族の介護は、終わりが見えません。でも、仲間がいると心強いです」という会員も。同会で、実際に家族を介護している人同士のつながりが生まれています。

紙オムツの選び方・使い方、

介護ストレスとの付き合い方

次回以降の介護講座の予定です

●排泄ケア編

とき 9月10日(水) 13時30分〜15時

内容 紙オムツの選び方・使い方

●介護ストレス編

とき 10月19日(日) 10時〜11時30分

内容 怒りの感情や後悔の気持ちとの付き合い方

いずれも会場は、筑後市総合福祉センターです。申込み・問合せは左記へお願いします。

筑後市社会福祉協議会

☎ 52・3969

info@chikugo-shakyo.or.jp

大事なのは「助けて」と 言えることと、 それを受け止める 理解のある人の存在



食事がのどを通らない日も・
自己嫌悪や不安を感じる日々
―朝起きたら、長男には障害はな
く、私を起こしてくれる。そして、
「ほら、障害なんてなかったじゃな
いか」と妻に言う―。
長男が幼いころ、こんな夢をよく
見ていました。
しかし目が覚めると、現実が待つ

7月23日（水）、RKB毎日放
送解説委員長・神戸金史さんを招
いた講演会が、九州大谷短期大学
で開かれました（主催 筑後市障
害者協議会）。
自閉症の長男の子育てや、津久
井やまゆり園事件の取材経験など
を話されました。

ています。長男を受け入れていない
のではと、自己嫌悪になったり、長
男の障害が理由で次男はいじめられ
るのでは、と不安になったり。
そんなことを思うと、食事がのど
を通らない日もありました。

「このままの長男でいい」
愛おしい思い出もたくさん

確かに、障害のある長男の子育て
は大変でした。でも、愛おしい思い
出もたくさんあります。

「長男はこのままでいい。元気で
あればそれでいい。それは障害があ
るうがなかるうが変わらない」と、
今は思っています。

やまゆり園にいたら

息子は殺されていた

そんな中、2016年に津久井や
まゆり園事件が起きました。被告は

ちくご啓発キャラバン隊！ 知的・発達障害の疑似体験プログラムを実施



見た目では分かりづらい知的障害・発達障害。
それを疑似体験を通して理解を広めようと活動
しているのが、ちくご啓発キャラバン隊“ちっ
きやら”です。

民生委員や校区福祉会での学習会などでも研
修を実施し、好評を得ています。「幼い子ども
や認知症高齢者等と関わる時にも応用できそ
うだ」という感想も多々。“ちっきやら”では、
企業・団体等からの研修会の依頼をお待ちして
います。お気軽にお問い合わせください。

■問合せ 筑後市社会福祉協議会 ☎52-3969

子どもの居場所をつくりたい 松原校区サマースクールが開催



7月22日（火）～25日（金）の4日間、熊野公民
館を会場に「松原サマースクール」が開催され
ました（主催：松原校区コミュニティ協議会）。

夏休み期間中、こどもの居場所をつくりたい
という思いから始められたこの取り組み。午前
中は宿題をし、昼食後はレクリエーションで楽
しみました。毎日、約70名の子どもと20名のボ
ランティアでにぎわいました。

今夏は松原校区以外にも筑後北校区や複数の
行政区でも、夏休み期間中のこどもの居場所づ
くりの取り組みが開かれました。

「意思疎通のできない重度の障害者は社会に不要な存在だ」と言い、19名の命を理不尽に奪いました。記者の立場で被告と面会した時も、同様の主張を私にしました。「私の息子は重度障害で、言葉を発することはできない。うちの息子がやまゆり園にいたら、殺害したか？」と尋ねると「はい」と答えました。

「では、認知症になって意思疎通ができなくなったら？」と続けて尋ねると、「殺害した方がいい」と彼は言いました。

つまり、この事件は障害者だけを狙った事件ではなく、役に立たなくなったら殺してしまえ、という主張であり、誰もが殺されてしまう可能性を秘めている事件なのです。

介護疲れや育児疲れ…理解のなさが孤立の背景に

「家族が認知症になった。だから殺そう」と、普通はなりません。しかし、現実には介護疲れや育児疲れによる悲しい事件はあります。親や子を殺したい人はいません。しかし、介護や育児で疲れ果てたときにやってしまう人がいます。

その背景には周囲の理解のなさがあります。認知症や発達障害の理解がなく、介護や育児の大変さを分かってもらえず孤立してしまい、家族を殺めてしまう。そんな事例は何件も起きています。

認知症や障害の正しい理解で悲しい事件は防げる

大事なものは「助けて」と言えることと、それをきちんと受け止める人の存在です。認知症介護や障害のある子の子育てについて、正しい理解を周囲が持っているだけで、事件は防ぐことができるはずです。

これを間違ってしまうと、「そんなに大変なら殺してしまえばいい」という短絡的な思考になってしまういかねません。そうならないよう、「悩んだ時は相談したらいい」とみんなが思い、「助けて」と気軽に言える社会であることが大切だと思っています。

※2016年7月26日に、相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で元職員の男が入所者を刃物で襲った事件。入所者19名が亡くなり、入所者・職員計26人が重軽傷を負った。

ひきこもり家族相談会

と き 9月18日（木）13:00～16:00

ところ 筑後市総合福祉センター（野町680-1）

★9月11日（木）17時までに要予約

（1日限定3名・匿名可）★原則来所での相談

問合せ・予約 筑後市社会福祉協議会

☎52-3969 info@chikugo-shakyo.or.jp

精神障害のある人のための
居場所・交流スペース

かたる～む

★9月の開設日のお知らせ★

と き 9月12・26日（金）13:30～15:00

★予約不要・時間内出入り自由

ところ 筑後市総合福祉センター（野町680-1）

問合せ 筑後市社会福祉協議会

☎ 52-3969

info@chikugo-shakyo.or.jp



筑後市母子寡婦福祉会

知っていますか？

ひとり親家庭のための 奨学金・貸付金他 支援制度



と き 9月28日（日）13:00～15:30

会場 筑後市総合福祉センター

対象 筑後市にお住まいのひとり親家庭

託児あり

- 説明会-----
ひとり親家庭に関する支援制度など
（市役所子ども家庭サポートセンターより）
高校・大学進学に関する奨学金制度など
（社会福祉協議会より）

- 相談会-----
大学進学に関する個別相談
※母子会会員優先、先着5世帯
（相談会での各種支援金の申請は不可）

申込み 9月18日（木）までに電話または下記申込フォームからお申込みください。

筑後市社会福祉協議会 ☎52-3969



社会福祉事業資金寄付

① 香典返し寄付の部

井口 房雄様（故 みゆき様） 下妻
大石 サヨ子様（故 和夫様） 尾島
田北 正文様（故 乙子様） 熊野

② 一般寄付の部

○ハートフルミュージックスクール中
尾様（常用）から現金の寄付がありました。

★ ①②計 五九、五〇〇円

善意奉仕銀行寄付

● 預託の部（物品口座）

○佐藤康史様（赤坂）から車イスの寄付がありました。
○野田製菓様（八女市）から黒棒の寄付がありました。
○篠原弘様（一条）から野菜の寄付がありました。
○立山康弘様（和泉中）から野菜の寄付がありました。
○匿名様から紙オムツの寄付がありました。
○大津誠次様（西牟田町）から紙オムツの寄付がありました。
○JAふくおか八女より野菜（前津）から野菜の寄付がありました。

おやこdeなぞときクエスト
チャレンジャー募集！

総合福祉センターからの挑戦状！
おやこで謎解きに挑戦しましょう



と き 9月13日（土）・14日（日）

9：30～16：30（入場は15：30まで）

ところ 筑後市総合福祉センター

参加費 300円（景品あり）

参加について

- 保護者の方と一緒にご参加ください。
問題は小学生向けに作成しています。
（年齢制限を設けているわけではありません）
- 右記申込フォームか、お電話（☎52-3969）でお申込み下さい。

点訳・音訳広報を
利用してみませんか？

障害や病気などで「広報ちくご」や「議会だより」、「社協だより」を読むことができない方へ、点字や音声の広報をお届けしています。

利用料は無料です。お気軽に筑後市社会福祉協議会（☎52-3969）までお問合せください。

○（株）プレシア様（下北島）からお菓子の寄付がありました。
【いずれも7月1日～7月31日まで】

ちくご
なないろ
フェスタ

7月31日（木）、6校区の学童保育所による合同保育「第9回ちくごなないろフェスタ」を行いました。

当日はこどものえんげきひろばの皆さんによる『どんぐりと山猫』の劇を鑑賞。劇に合わせて大きな声でセリフを言うなど、参加型の内容で、とても楽しい時間となりました。

事務局通信

「アドバイスが欲しいわけじゃない。ただ分かってほしいだけ」

20年以上、夫を介護している女性の言葉です。

介護家族の会の会員で、ずっとお話を聴きしていました。

「とにかく夫を嫌いにならないように、がモットー」「家族会で話すと、すぐ分かってもらえるので、ありがたい」や、「『孫が成人式を迎えるまで、オレは生きるつもりだ』と夫は言っている」という話もお聴きしていました。

なので、「夫が亡くなりました」の連絡に驚くばかりでした。

計報を聞いた他の会員は「長い間お疲れさまでした」と言われました。そして、長年の介護を労う言葉が寄せられました。そして、女性からは感謝の言葉が返されていました。

家族の介護という共通点があるからこそ、「分かってほしいだけ」が自然とできるし、介護の頑張りや苦勞を理解している人がいることが、介護を乗り切る力になったのかもしれない。

支援は大事です。そして、理解と共感、もっと大事なかもしれません。（善）